



# 9月の園だより

学校法人志賀学園

松の実こども園

令和3年9月1日

晴れたり、突然雨が降ったりと不順なお天気が続いております。2学期が始まり泣いてくるお子さんもいましたが、すぐに生活のリズムを取り戻しお友だちと元気いっぱい遊んでいます。

今年には東京五輪の年でしたね。皆さま、ご家族お揃いでテレビの前で応援されたことと思います。特に、福島復興五輪のシンボルとして、野球・ソフトボールの初戦が県営あづま球場で行われました。どちらも準決勝、決勝と強豪国に勝ち、見事金メダルを獲得しました。中でも北京五輪から13年、1度は膝の故障で引退も考えたというキャプテンの上野由岐子選手。地道なリハビリやトレーニングなどで故障を克服し、「投げられなくなるまで投げる」と競技人生の全てをささげ、今回の金メダル獲得に貢献されました。その姿を通して、スポーツの力で「諦めない心」「諦めなければ夢は叶う」ということを日本中の人々に伝えられたことでしょう。そして宇津木コーチは、子どもたちに「夢を追い続けることの素晴らしさ」を心に焼き付けておいてもらえれば、と語っていました。

コロナ感染拡大の中、ひっ迫する医療機関で働く方々、苦しむ患者さん、五輪開催について賛否両論ある中、選手は誰も開催して欲しいとは言いませんでした。1年延期となり、それでも開催されるかどうか分からない不安を抱えながら、じっと我慢して、毎日コツコツと練習に励んできました。特に印象的だったのは選手の皆さんが、メダルを獲得できなかったにもかかわらず、開催してくれた関係者の皆様へ、感謝の意を表していたことでした。結果ではなく、これまで育んできたプロセスが大事だと強く感じました。それは、子どもの育ちも同じです。発表の出来栄だけでなくそこにいきつくまでのプロセスが大事です。2学期はいろいろな行事を予定していますが、毎日楽しく取り組んでいく中で、子どもの育ちを大切にしながら発表につなげていければと思います。

園では2学期に向け、先生方で今後の生活や行事への取り組みについて、話し合ったり、準備を進めてきました。どのような状況になっても、子どもたちが楽しく園生活が送れるよう前向きに取り組もうとしている先生方の姿に、勇気と希望を感じました。

28日(土)に予定しておりました、さくら組親子参加の夏まつりですが、27日(金)にホールで、さくら組の子どもたちと先生方で行いました。また、他の学年の子どもたちとは、後日『秋まつりごっこ』という形で実施できるよう考えています。9月12日まで、いわき市でもまん延防止等重点措置となっております。予定していた行事の中止や変更などもあるかと思いますが、コロナだからできないではなく、コロナであってもできることを工夫しながらやっていくことで、昨年同様、子どもたちの心に残る保育を進めて行けたらと思います。

ご家庭におかれましても、引き続き細やかな感染対策に努め、今後共こども園活動に対しましてご理解とご協力くださいますようお願い致します。